

地域医療連携法人に認定

美濃国リンケージ 医師不足に対応



地域医療連携推進法人に認定された美濃国地域医療リンケージの関係者＝羽島郡笠松町田代、松波総合病院

自治体の枠を超えた医療体制の構築に向けて社会医療法人蘇西厚生会(羽島郡笠松町)と海津市医師会、美濃市が立ち上げた「美濃国地域医療リンケージ」が今月、県から地域医療連携推進法人に認定された。少子高齢化や医師不足が進む

中、最短半日単位での医療スタッフ派遣など、自治体を超えて医療従事者不足に対応する。認定は県内2例目。同連携推進法人は、医療機関の機能分担や業務連携を目的とする一般社団法人を、都道府県知事が認定す

る仕組み。3者は昨年11月、母体となる一般社団法人を設立していた。対象となるのは海津市医師会病院と美濃市立美濃病院、蘇西厚生会が運営する松波総合病院や同病院介護老人保健施設など。

認定により、これまで年単位で契約を結ぶなどしていた人事交流が、月単位、日単位で可能となる。基本的には医師の潤沢な松波総合病院から、海津、美濃両市への派遣を想定している。研修会を共同で開いて受講機会の拡大や効果向上を図ったり、医薬品や災害備品を共同購入し、3者の経営負担を減らす。

23日に松波総合病院(同町田代)で会見を開いた富田栄一代表理事は「自治体の枠ではなく、患者の動きに合わせて持続可能な医療を提供していきたい」とあいさつ。同病院の松波和寿病院長は4月から始まった医師の働き方改革に触れ「笠松町から各病院は30分の距離。柔軟な勤務体制が期待できる」と話した。

(安井真由子)